

# ウメト インフォメーション

2020年 12 月 25 日 担当 小松

▶中日本高速、鹿島/床版リニューアルに超高強度材料活用/メンテナンスコスト削減 [2020年12月24日3面]



打設状況のイメージ

中日本高速道路会社と鹿島は23日、超高性能繊維補強セメント系複合材料（UHPFRC）を用いた道路橋床版のリニューアル工法を開発したと発表した。コンクリート床版と鋼床版の2種類に適用が可能。超高強度材料により床版増厚量を最小限に抑えて重量を削減できるため、橋梁下部工の補強が不要となる。従来の鋼繊維補強コンクリート（SFRC）よりも、緻密性が高く塩分や水分の侵入を長期間抑制でき、床版メンテナンスコストを3分の1程度に削減できるという。

SFRCの鋼繊維の長さや配合を変えることにより、耐荷力と耐久性を高めている。現場で流動性を調整し、12%勾配までの整形が可能という。コンクリート床版橋の場合は、劣化部の除去後に上面からUHPFRCを打ち込み、床版厚さを変えずにリニューアルする。鋼床版橋は、アスファルト舗装の基層をUHPFRCに打ち替える。

両者は実適用に向け、施工方法の検討や施工手順などマニュアル整備を進める。中日本高速会社は試験工事も見据えている。



# ウメモト インフォメーション



2020 年 12 月 24 日

担当者: 岩崎

## IEA 2020 S 2021 年 世界石油 需要見直し 下方修正 「ワクチン効果は数カ月後」

【ロンドン】IEA（国際エネルギー機関）は15日、2020 S 2021 年の世界石油需要の見直しを下方修正したことを明らかにした。

IEAは今回、新型コロナウイルスのワクチンによる石油需要への効果が得られるまで、数カ月かかるとの見解を発表。ワクチン効果の遅れによりシェット燃料需要がせい弱にとどまり、欧州の需要が第4四半期（10 S 12月）に減少するたため、2020年の需要見直しを前回予想から5万バレル、2021年を17万バレルそれぞれ引き下げたとした。

しかしOPEC（石油輸出国機構）プラスの協調減産が奏功し、世界の原油在庫は2021年7月までに2019年末の水準を下方見込みを示した。

2020 年 12 月 24 日

担当者: 若崎

各専門家

## シェール軽視続く

### 要因は投資家の要求などが

【ニューヨーク17日ワシントン】米国のシェール業界を過小評価する者は、危険を覚悟でそうしていることは歴史が示している。だがEIA（米エネルギー情報局）を含めた各専門家は、シェール業界を駄目だとみなす行為を止めない。彼らは、原油価格低迷、油井減少、資本効率に関する投資家の要求などの組み合わせが、この要因による力がシェール部門を停滞させていると警告している。

これらの要因による「むじみ」を予想している。最新のデータによれば、米国の生産量は増えつつあるが、主としてハリケーンが多発したシーズン後、メキシコ湾で回復したためだ。EIAは、米国の生産量について、11月は第4週の平均1180万バレルを含め、10月の1090万バレルから増え、全体で平均1120万バレルになると予想している。EIG（エナジー・インテリジェンス・グループ）の予想はこれよりやや強気で、2020年は1140万バレル、2021-2022年は平均21140万バレルを予想している。2023年は1190万バレルになるとしている。

また業界内での統合、合併により、規模が大きくなり相乗効果が生まれている。フランス連邦準備銀行による最近の調査では、シェール企業各社が必要とする既存の油井操業上の経費を賄うためのコストは、ほとんどの油田で30%以下と報告されている。掘削コストを含めても、パーミアン盆地では40%以下でも利益をあげることが可能だと

指摘する向きも多い。同氏はシェールの復活はすでに進行中だと述べ、米国の生産量は過去3週間の平均が1200万バレル以上、過去2週間では1220万バレルと試算している。将来のシェールの成長の余地については、石油企業各社のFCF（フリーキャッシュフロー）を賄うことも負

債削減を要求する各投資家を満足させる必要性によって複雑になっている。株主はシェールブーム時代に莫大な資本を台無しにした借金を原動力とするビジネスモデルを受け入れない。それにより米国のE&P（石油の探査・生産）部門は、株式市場で遅れをとっている。だが潮目は変わりつつあるかもしれない。原油高および新型コロナのラフテンへの期待を背景に、E&P関連株は1月初めに業界内で上昇している。業界内では資本効率が向上しつつあり、各投資家は、この業界が新型コロナウイルス後の世界において、市場ではかき圧倒するという勝算があるとみている。

一方、業界のスケールが拡大し続け、サービスマーケット（原油が平均50%になれば、来年発生するFCFのイールド（利回り）は市場の一般的水準より2倍高い平均11%になると言う。原因の一部はキャピタル・ティーンプリン（投資方針の厳格な適用）による説明可能だが、モルガン・スタンレーは生産を維持するために必要な原油価格の損益分岐点を有意に下ろしてきた持続的な効率的性についても指摘した。

つまりシェール業界は、急落の場面で有利になるかもしれない。4月以来、ミッドランド、テラウェア、イークルフォード、ウィリントン、DJの主要なシェールオイル盆地5カ所におけるサイクル全体の損益分岐点は4%あるいは8%減少し、平均46%となっている。金融企業JPモルガン・チェースは指摘している。また同社は、シェールの油井における生産の伸びが緩慢になっている一

方、業界のスケールが拡大し続け、サービスマーケット（原油が平均50%になれば、来年発生するFCFのイールド（利回り）は市場の一般的水準より2倍高い平均11%になると言う。原因の一部はキャピタル・ティーンプリン（投資方針の厳格な適用）による説明可能だが、モルガン・スタンレーは生産を維持するために必要な原油価格の損益分岐点を有意に下ろしてきた持続的な効率的性についても指摘した。

2年までに新たに石油換算2700万バレルが必要になる。非営利組織IEBP（インターナショナル・エナジー・フォーラム）とコンサルタント企業ホーストン・コンサルティング・グループによる新たな合同報告書によると、危機を阻止するため、業界への投資を今後3年間で、2020年の水準から年間25%増やさなければならぬという。

引用記事：日本燃料油脂新聞

# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他( )

2020年12月24日

担当者: 岩崎

## 中国11月過剰在庫が解消 原油輸入量増加

【北京】中国の原油輸入量が11月、前月から増加したことが明らかになった。

GAC（中国海関総署）によると、独立系企業各社による購入が減速したが、前月の4256万トから増加し4536万ト（1104万トン）に達したという。11月は、前年同期比9.5%増の5億392万ト（1098万トン）とした。

11月の輸入量増は過剰在庫の解消が要因。中国の海上在庫は9月初め、各港の過密により、9600万バレルのピークに達したが、11月末には約3000万バレルまで減少したという。

またMOC（中国商務部）は、2021年の民間企業各社への原油輸入枠を合計2億4300万トンまで、前年比20%引き上げる方針を示している。

# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他( )

2020年12月29日

担当者: 若崎

## 2021年1月減少の見通し

### シェールオイル 過去7カ月間で最低生産量

【ニューヨーク】全月連続減少、前月比13万6000バレル減の744万バレルの見込みだという。テキサス州とニューメキシコ州に広がるパーミアン盆地で

EIA(米エネルギー情報局)によると、主要シェール層7カ所で5月以来最長の4カ

全米ガソリン需要19%減

23年振りの最低水準に

感謝祭第4週  
11月

【ニューヨーク】全米のガソリン需要が11月26日の感謝祭を含む11月第4週、1997年以来の最低水準まで減少したことが明らかになった。情報筋によると、国内中部が前年同週比23.3%、ニューシャーン州が約30%それぞれ大幅に減ると指摘している。

情報筋は、ガソリン需要が12月末までにさらに悪化する可能性がある

新型コロナウイルス感染再拡大を受け、各地方当局が外出制限を実施したことが主な原因だとした。



# ウメモト インフォメーション



2020 年 12 月 24 日

担当者: 岩崎

## サウジ 石油収益30%減か

### 2020 年見通し

【リヤド】サウジアラビア政府が15日、石油による収益が2020年、前年比30%減少する見通しを明らかにした。政府によると、新型コロナウイルスの

世界的流行の影響で収益は、GDP（国内総生産）の4・9%に相当する1410億リアル（約37・6億ドル）（約37・6億ドル）縮小する見込み。そのためGDP12%相当の2980億リアル（約794億ドル）の損失を計

上する見通しとした。

一方、今年の赤字計上を考慮し、2021年の予算を7%減の9900億リアル（約2640億ドル）に決めた。政府は、収支のバラ

ンスを2023年までにとる計画としている。またADCB（アラブ商業銀行）のエコノミストは、サウジアラムコの配当金や投資の回収が2021年の予算を支える主要な要因になる可能性を指摘した。